

「総合水資源管理について(中間とりまとめ)」の概要

平成20年10月 国土審議会水資源開発分科会調査企画部会

- 「開発」から「マネジメント」への水資源政策の転換を提案
- 総合水資源管理の“体系”と“計画内容”等の大枠を提示
- 今後、関係する主体の意見を幅広く聴きつつ概念・内容を精査

委員名簿(平成20年10月現在)

委員	虫明 功臣	福島大学理工学群教授(部会長)
特別委員	飯嶋 宣雄	東京水道サービス(株)代表取締役社長 (部会長代理)
特別委員	佐々木 弘	神戸大学名誉教授
特別委員	榎村 久子	京都女子大学現代社会学部教授
特別委員	恵 小百合	江戸川大学社会学部教授
専門委員	沖 大幹	東京大学生産技術研究所教授
専門委員	小泉 明	首都大学東京大学院都市環境科学 研究科教授
専門委員	児玉 平生	毎日新聞社論説委員
専門委員	櫻井 敬子	学習院大学法学部教授
専門委員	曾小川 久貴	日本下水道事業団副理事長
専門委員	古米 弘明	東京大学大学院工学系研究科教授
専門委員	三野 徹	鳥取環境大学研究・交流センター教授
専門委員	三村 信男	茨城大学広域水圏環境科学教育研究 センター教授
専門委員	渡辺 和足	(財)ダム水源地環境整備センター理事長

開催経過

平成20年
3月7日:
第1回 水資源を巡る課題について
3月18日:
第2回 気候変動に伴う湧水に対する適応策について
6月6日:
第3回 水資源を巡る各課題への対応について
6月27日:
第4回 水資源を巡る各課題への対応について
8月1日:
第5回 総合的水資源マネジメントのための計画等について
8月29日
第6回 中間とりまとめ(案)について

水資源の課題と総合水資源管理への転換の必要性

水資源の課題

顕在化している課題

施設の老朽化の進行等による
施設機能低下リスクの増大

大規模地震等による
水供給等障害リスクの増大

安全でおいしい水、
豊かな環境への要請

水系全体で見ると課題の残る
施設配置と利用

進まない需要面の
弾力的水利用・節水

適正な保全と管理が
なされていない地下水

水源地域をはじめとする
流域の保全

温暖化への対応の必要性

大規模渇水の発生
高潮災害、地下水塩水化 等

課題への対応の視点

課題が相互に関連を有している

(例)

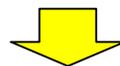
- 河川の水質は流量にも大きく影響される。
- 渇水時に地表水の代替として地下水の利用が増大する。

同じ水系に水資源を依存する地域の中での 利害調整や合意形成が必要

(例)

- 複数の主体による取水口と排水口の混在による水質リスクへの対応
- 既存施設の震災・事故リスクへの対応
- 増大する渇水リスクへの対応

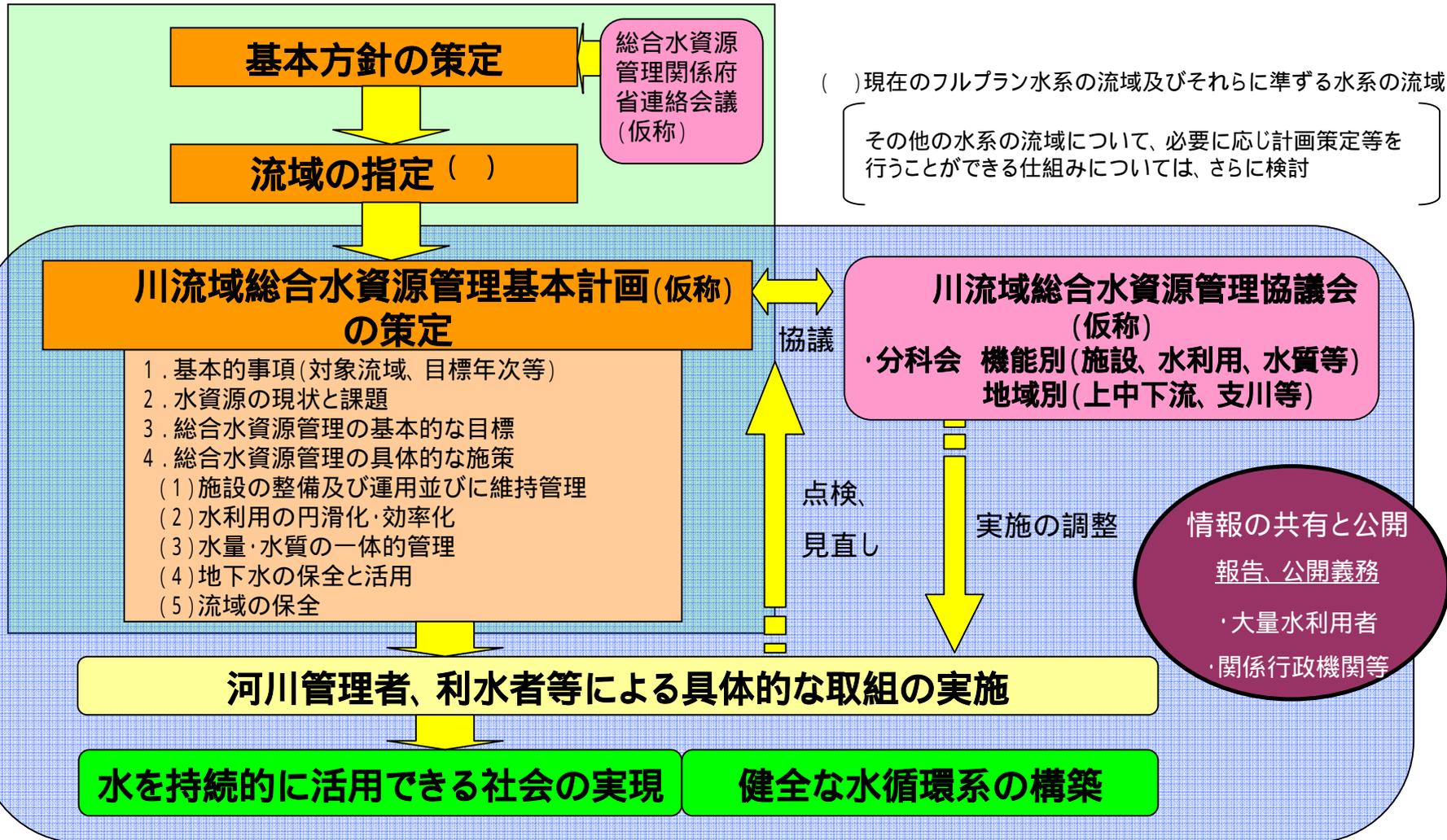
温暖化によるさらなる悪影響や 新たな課題の発生の懸念



一つの水系に依存する流域を単位とした
水にかかわる主体の連携・調整が必要

「総合的なマネジメント」への転換が必要

総合水資源管理の体系



流域総合水資源管理基本計画(仮称)の概要

- ・気候変動リスクへの対応
- ・流域における“水に関する全体像”の可視化
- ・流域総合水資源管理協議会(仮称)における協議を経て国が策定
【協議会の構成分野】
水資源、利水(上水道、工業用水道、農業用水)、河川管理、下水道、環境等

流域の保全

- ・流域の水循環の健全化
- ・水源地域の保全

水量・水質の一体的管理

- ・必要な箇所に、必要な水質を、必要な水量、より低コスト・低エネルギーで確保

施設の整備・運用・維持管理

- ・既存施設の改築・維持管理
- ・水資源施設の効率的運用
- ・新たな施設の整備
- ・地震時災害時・水質事故時等に
おける危機管理
- ・水資源の持つ自然エネルギーの
有効活用

水利用の円滑化・効率化

- ・水利用の調整
- ・雨水利用の促進
- ・再生水の利用の促進
- ・渇水時における対応

地下水の保全と活用

- ・地下水を適正な保全と管理のもと
で活用

